

中国語教育学会会報

第 68 号(通巻 93 号) 2024 年 8 月 20 日発行

〒261-0014

千葉県千葉市美浜区若葉 1-4-1

神田外語大学 アジア言語学科

中国語専攻 植村麻紀子研究室内

中国語教育学会

Website <http://www.jacle.org/>

Email headoffice@jacle.org

郵便振替口座 00110-1-191152

目次

1. 第22回全国大会について.....	1
2. 2024年度第1回理事会報告.....	2
3. 2024年度会員総会報告.....	7
4. 『中国語教育』第23号の投稿募集について.....	8
5. 2024年度研究会開催報告.....	9
6. 今年度のワークショップ・交流会予定.....	9
7. 事務局からのお知らせとお願い.....	10
7.1. 会員動向.....	10
7.2. 会費納入状況確認ならびに会費納入のお願い.....	10
7.3. 退会および除籍について.....	11
7.4. 登録情報の変更について.....	11
7.5. 住所不明の会員.....	11

1. 第22回全国大会について

中国語教育学会第22回全国大会が2024年6月1日(土)および2日(日)の両日、大阪大学箕面キャンパスで開催されました。初日午前中には今年度第1回編集委員会および第1回理事会が開催されました。午後は開会式に続き、基調講演としてCLTA(美国中文教師学会)会長でワシントン大学セントルイス校教授の梁霞先生をお招きし、《美国中文教育的历史、现状与未来——兼谈中文传承语教学问题》と題してご講演いただきました。その後、「継承語としての中国語教育を考える」とのテーマで、大阪大学の櫻井千穂先生、大阪府立門真なみはや高等学校の王雁先生・柳素子先生、大阪経済法科大学の李光曦先生、愛知大学の小川典子先生・朱藹琳先生が登壇され、大変興味深いシンポジウムが開催されました。夕方からの会員総会では学会誌の投稿規程・執筆要領ならびに締切の変更、今年度の研究会のお知らせ、中国語教育ワークショップ・交流会委員会の立ち上げなどについて報告されました。夜は大学食堂をお借りし、5年ぶりに飲食を伴う懇親会も行われ、1日目が賑やかに終了しました。

大会2日目は3つの分科会に分かれ、午前午後あわせて18本の口頭発表が行われました。当日のプログラムについては学会Webページをご覧ください。今回の大会には220名の方にご参加いただき、

書店・出版社の方々にも 18 社ご出店いただきました。発表者、司会者の方々、参加して下さった会員の皆様、そして全国大会の準備にご尽力くださった第 22 回全国大会準備委員会の先生方に厚く御礼申し上げます。

2. 2024年度第1回理事会報告

2.1. 日時・場所・出席者(敬称略)

日時：2024年6月1日(土) 午前10:30~12:30

場所：大阪大学箕面キャンパス

出席者：植村麻紀子、加藤晴子、清原文代、氷野善寛、勝川裕子、佐々木勲人、杉江聡子、中田聡美、西香織、長谷川賢、平井和之、古川裕、紅粉芳恵、丸尾誠、三宅登之、村上公一、藤井久美子(『中国語教育』23号、2024年度編集委員会委員長)、伊藤大輔(デジタルリソース委員会委員長)、青野英美、黄琬婷、日高知恵実(幹事)

欠席者：鈴木慶夏、陳淑梅、藤井達也

2.2. 報告事項

2.2.1. 2024年度~2025年度役員・事務局

2024年度~2025年度の本学会および事務局所在地が以下の通り内定し、会員総会に推挙されることが、植村会長より報告された。

(1-1) 役員(以下、五十音順。敬称略)

顧問：輿水優、依藤醇

会長：植村麻紀子

代表理事：加藤晴子、清原文代、氷野善寛

理事：勝川裕子、佐々木勲人、杉江聡子、鈴木慶夏、陳淑梅、中田聡美、西香織、長谷川賢、平井和之、藤井達也、古川裕、紅粉芳恵、丸尾誠、三宅登之、村上公一

幹事：青野英美、黄琬婷、日高知恵実

会計監査：斎藤貴志、由川美音

(1-2) 事務局

[事務局]

〒261-0014 千葉市美浜区若葉1-4-1 神田外語大学外国語学部アジア言語学科中国語専攻
植村麻紀子研究室内 中国語教育学会事務局
headoffice@jacle.org

[事務局事務代行] (あゆみコーポレーション)

〒550-0001 大阪市西区土佐堀1丁目4-8 日栄ビル703A あゆみコーポレーション内
support@jacle.org

2.2.2. 会員動向および会費納入状況

会員動向および会費納入状況は以下の通りである。

(1) 会員数（2024年5月13日現在）：計584名

個人会員561（通常会員519名、名誉会員42名）／団体会員23名

(2) 新入会者（2023年11月23日～2024年5月13日現在）：計12名（以下敬称略）

今岡貴子（倉敷高等学校）、王瓊（国士舘大学法学部・非）、賈海濤（神奈川大学外国語学部・特任教員）、高飛（愛知淑徳大学）、高橋愛（高知大学・非）、鄭嵐（徳島大学教養教育院・非）、寺倉大智（立命館大学・研修生）、畢文濤（北京語言大学東京校）、楊甯（早稲田大学・院）、吉野孝介（京都外国語大学・研究員）、李筱（大阪大学・院）、劉玲伶（（株）prooproo・専任教員）

(3) 退会届け提出者（2023年11月23日～2024年5月13日現在）：1名

(4) 除籍者：全国大会終了後に再度メールによる最終通知を行ったうえで除籍処理し、第2回理事会で報告する。

(5) 会費納入状況（2024年5月24日現在）：1,535,000円

2.2.3. 2023年度決算報告

昨年度事務局幹事の中田理事より、2023年度の決算について監査資料に沿って報告がなされた（本会報 p.12【資料1】参照）。

2.2.4. 2024年度第1回編集委員会報告

藤井委員長より、理事会当日の6月1日（土）9:30～10:30に編集委員会が開催されたことが報告され、『中国語教育』23号の編集スケジュール案が示された。また昨年度に引き続き、投稿区分の「実践報告」を「実践論文」などの名称に変更するか委員会内で再度協議した結果、変更せずに「実践報告」のままとすること、今年度も例年と同様に、全国大会1日目の基調講演とシンポジウムの原稿を会誌に掲載すべく、登壇者に原稿を依頼することが説明された。

2.2.5. デジタルリソース委員会報告

伊藤委員長より、学会Webサイトの更新と、外部団体等からの掲載依頼について報告がなされた。また会員総会にて、会員からの掲載依頼のプロセスを再度周知するとの説明がなされた。

2.2.6. 今後の研究会開催予定について

長谷川理事より、2024年度の研究会担当者（東日本：杉江聡子・鈴木慶夏、西日本：長谷川賢・紅粉芳恵）、および研究会の年間開催予定が報告された。

第1回：2024年8月3日（土）（担当：東日本、オンライン開催）

第2回：2024年12月15日（日）（担当：西日本、オンライン開催）

第3回：未定（2月又は3月のいずれかの土日で、オンライン開催）

[募集方法、内容]

- ・研究発表、授業実践報告等
- ・学会 HP で募集する（団体または個人）
- ・発表者は会員に限る（団体の場合、筆頭者一名以上が会員であれば可）
- ・複数の応募があった場合、発表時期は発表者と協議する
- ・応募が少なかった場合、研究会委員で企画（講演、発表依頼）を考える
- ・事前にタイトル、400 字以内の発表要旨、発表種別を提出
- ・原則、全員採用とするが、複数の応募または発表内容により、断る可能性もあり
- ・発表は質疑応答を含めて 40 分以内
- ・参加費無料（非会員も参加可能）

[第 1 回研究会（担当：東日本）] *終了しました

日時：2024 年 8 月 3 日（土）オンライン（zoom）開催

5 月中旬 学会 HP で開催日時の告知

6 月 1 日（土）全国大会総会で告知後、HP にて募集開始

募集締め切り 6 月 23 日（発表種別とタイトル、400 字の要旨）

応募先 Email: kanto■jacle.org（■を@に代えて使用してください）

締め切り後、正式に学会 HP で日程、発表要旨を告知

なお、応募者多数の場合は、次回以降の研究会での発表を打診する。

2.2.7. 今後の全国大会について

植村会長より、第 23 回（2025 年度）全国大会開催校および同大会準備委員会の構成員が以下の通り内定したことが報告された。大会準備委員は必要に応じて今後、増員されることも確認された。

[第 23 回（2025 年度）全国大会]

日程：2025 年 5 月 31 日（土）～6 月 1 日（日）

会場：北海学園大学（〒062-8605 札幌市豊平区旭町 4 丁目 1-40）

大会準備委員会： 田邊鉄（北海道大学・委員長）、杉江聡子（北海学園大学・開催校）、楊彩虹（北海道大学）、日高知恵実（明治学院大学・事務局幹事）

全国大会準備委員の選出について、現段階では明確な規定がないため、今後理事会で審議し、規約を作成することとなった。さらに植村会長より、第 24 回（2026 年度）全国大会の開催校に、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（委員長：宮本大輔）が内定したとの報告がなされた。

[第 24 回（2026 年度）全国大会]

会場：慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（〒252-0882 神奈川県藤沢市遠藤 5322）

大会準備委員会：宮本大輔（委員長）

2.2.8. 昨年度の中国語教育ワークショップの実施報告

氷野代表理事より、2023 年度は「中国語教育ワークショップに関するワーキンググループ」主催で中国語教育に関するワークショップを3回企画・開催し、加えて会員限定で録画の公開も行ったとの報告がなされた（第2回・第3回ワークショップの開催状況については、会報第66号参照）。

[第4回中国語教育ワークショップ]

日時:2024年2月25日(日)20~21時

テーマ:「リサーチクエストの立て方〜『中国語教育』への投稿」

講演者:勝川裕子(名古屋大学・准教授)

メインターゲット:大学院生、若手研究者、これから論文の投稿や研究発表を考えている人

形式:ZOOM を利用したオンライン講演

参加者数:約70名

2.2.9. 2024 年度第 2 回理事会開催日

植村会長より、2024 年度第 2 回理事会を 2024 年 12 月 1 日(日)13:30~16:30 にオンラインで開催することが報告された。

2.2.10. 対外交流の動きについて

植村会長より、2023 年度第 2 回理事会以降から現在までの対外交流の動き（学会誌の寄贈・納本）が報告された。台湾の世界華語文教育学会より寄贈された『華語文教学研究』「第 21 巻第 1 期 2024 年 3 月発行」のデジタル版は、以下のリンクから参照可能である。

<https://toaj.stpi.narl.org.tw/index/journal/volume/4b1141f98e737b1f018ea20df1d40f52>

2.3. 審議事項

2.3.1. 『中国語教育』編集委員会関連事項

藤井委員長より、編集委員会での決定事項および検討事項について説明がなされた。理事会での審議の結果、「投稿規程・執筆要領」を以下の通り変更することが決定した。

現状の「投稿規程・執筆要領」では、「9 月 16 日~9 月 30 日」というように投稿受付期間に特定の日付が含まれているが、これを「9 月第 2 土曜日 0:00~9 月第 4 土曜日 12:00(正午)」に変更する。また従来は、メールの遅配が生じた場合に備えて、プリントアウト原稿を事務局宛に郵送するよう求めていたが、昨今の郵送物の遅配状況やプリントアウト原稿の事務局保管の難しさなどを考慮し、郵送による投稿受付は廃止する。代わりに、原稿の MS-Word ファイルに加えて PDF ファイルの提出を新たに求め、編集委員会は原稿受領から 24 時間以内に確認メールを送る。

2.3.2. 2024 年度予算案

日高幹事より、事務局が提示する 2024 年度予算案について説明がなされた。審議の結果、予算案通りに承認された（本会報 p.13【資料2】参照）。

2.3.3. 名誉会員について

植村会長より、名誉会員候補者に関して、2025年4月1日現在で条件を満たす下記5名の会員が挙げられ、審議の結果、全員を名誉会員として会員総会で推薦することが決定された。

(以下、敬称略) 佐藤素子、花澤聖子、原田寿美子、齋藤匡史、周建中

2.3.4. 学会誌のデジタル化について

氷野代表理事より、学会誌デジタル化に伴う報告・検討事項が提出された。(1) 3社に見積もり書の作成を依頼した結果、学会誌の印刷を委託していた「日本オフセット」から業務内容を引き継いだ新会社「株式会社しんこう」に、学会誌デジタル化業務を委託することとなった。(2) 学会誌のデジタル化の範囲およびJ-stage掲載の範囲について提起がなされた。これは、本学会誌には論文のほか、実践報告、書籍紹介、年間活動報告などが掲載されているためである。(3) 著作権保持者からの許諾取得方法について、日本中国語学会では「バックナンバーの電子アーカイブ化に伴う著作権行使の許諾に関する公告」を掲載することで、著作権保持者からデジタル化の許諾を得たものと見なしているとの情報提供がなされた。本学会でも同様の方法で公告し、期限内に掲載不可との連絡がなかったものについては、すべて掲載する方向で進めていくことが提案され、承認された。(4) 今後新たに発表される論文のJ-stage掲載時期については、時間の都合上、継続審議となった。今後の議論は、「デジタル化ワーキンググループ」(石井友美・伊藤大輔・田邊鉄・氷野善寛、以上敬称略)で取りまとめを行い、その提案を受けて、引き続き理事会で審議を行い、作業を進めていくことが確認された。

2.3.5. 会員名簿の印刷とオンライン化に関する検討

氷野代表理事より、会員の検索機能を備えた会員情報システムの構築費用に伴う報告・検討事項が提出された。事務局事務代行のあゆみコーポレーションに見積もりを依頼したところ、かなりの高額であったため、これまでと同様に会員名簿を印刷して配布するか、もしくは1~2年に1回PDFを作成して配布する案も俎上に載せられた。またシステム構築のメリットを再度検討するとともに、システム構築の費用を削減できないか、引き続き検討していくことが確認された。

2.3.6. 中国語教育ワークショップ・交流会委員会の立ち上げと内規

植村会長より、これまで2年間運営されてきた「中国語教育ワークショップ・交流会ワーキンググループ」を正式な委員会として成立させる提案がなされ、またこれに関連する新たな内規案が示された。併せて、阿部慎太郎会員、太田匡亮会員、勝川裕子理事、西村英希会員、原田夏季会員、氷野善寛代表理事からすでに今期の委員就任の内諾を得ており、当面の間は植村会長も委員会活動に参加するとの説明がなされた。委員会の立ち上げと委員、内規案は全会一致で承認された(本会報 p.14【資料3】参照)。

2.3.7. 全国大会案内の紙版発行の廃止検討について

植村会長より、これまで4月中下旬に郵送していた紙版での大会案内を廃止し、来年度以降は会員メンバーリストや学会Webサイトで大会案内を通知することが提案された。廃止を検討する理由として

は、あゆみコーポレーションへの事務委託費がかさむことに加え、所属や住所の変更などに伴い郵便物が住所不明で差し戻されるケースが多く発生し、その対応に手間がかかることなどが挙げられた。上記案は全会一致で承認された。プログラムの掲載形式としては、出張申請の便宜なども考慮し、学会 Web ページに PDF ファイルをアップロードすることが確認された。

3. 2024年度会員総会報告

3.1. 日時・方式

日時:2024年6月1日(土)17:10-18:00

場所:大阪大学箕面キャンパス

議長:丸尾誠

3.2. 議案第1号 2024年度~2025年度役員・事務局

上記 2.2.1.の案が審議にかけられ、承認された。

3.3. 議案第2号 2023年度決算報告

上記 2.2.3.の決算報告が審議にかけられ、承認された。

3.4. 議案第3号 2024年度予算

上記 2.3.2.の予算案が審議にかけられ、承認された。

3.5. 議案第4号 名誉会員の推薦

上記 2.3.3.で推挙された佐藤素子会員、花澤聖子会員、原田寿美子会員、齋藤匡史会員、周建中会員の5名を名誉会員とする案が審議にかけられ、承認された。

3.6. 報告事項1 会員動向および会費納入状況

上記 2.2.2.の会員動向および会費納入状況が報告された。

3.7. 報告事項2 編集委員会報告

上記 2.2.4.編集委員会報告ならびに 2.3.1.「投稿規程・執筆要領」に関わる審議事項について報告がなされた。

3.8. 報告事項3 デジタルリソース委員会報告

上記 2.2.5.の内容が報告された。

3.9. 報告事項4 2024年度研究会

上記 2.2.6.の内容が報告された。

3.10. 報告事項5 第23回(2025年度)および第24回(2026年度)全国大会

上記 2.2.7.の内容が報告された。

3.11. 報告事項6 2023年度中国語教育ワークショップの実施報告

上記 2.2.8.の内容が報告された。

3.12. 報告事項7 学会誌のデジタル化について

上記 2.3.4.の内容が報告された。

3.13. 報告事項8 会員名簿の印刷とオンライン化について

上記 2.3.5.の内容が報告された。

3.14. 報告事項9 中国語教育ワークショップ・交流会委員会の立ち上げと内規

上記 2.3.6.の内容が報告された。

3.15. 報告事項10 全国大会案内の紙版廃止について

上記 2.3.7.の内容が報告された。

4. 『中国語教育』第23号の投稿募集について

投稿規程・執筆要領は 2024 年 6 月に一部改訂されました。投稿前に、最新の投稿規定および執筆要領を下記の学会 Web ページで確認し、学会が提供するテンプレートファイルを使用して原稿および投稿票を作成してください。なお、投稿は 2024 年 9 月 15 日までに 2024年度までの会費を納付済みの中国語教育学会会員に限ります。

本会于 2024 年 6 月修订了投稿须知。投稿前请务必仔细确认本会网站上的最新规定。投稿须知，请参照下面网址。投稿须知目前仅有日文版，请多包涵。

<http://www.jacle.org/contribution/>

[改訂のポイント]

『中国語教育』第23号の投稿受付期間は、2024年9月14日0:00から9月28日正午(日本時間)までです。今年度より締切日が日本時間9月第4土曜日正午となりました。

原稿のMS-WordファイルおよびPDFファイルと、必要事項を記入した所定の投稿票MS-Wordファイルの3点をcontrib@jacle.org(『中国語教育』編集委員会)宛にメールに添付してご提出ください。メール送信の際の件名と添付ファイルのファイル名は指定されていますので、ご注意ください。事務局への郵送は不要です。なお、提出後24時間以内に受領確認のメールが届かない場合は、編集委員会に必ず問い合わせをしてください。

5. 2024年度第1回研究会開催報告

開催日時:2024年8月3日(土)13:00~15:15

形式:オンライン(Zoom)

参加者数:22名

<プログラム> (発表30分+質疑応答10分=1人40分)

- ① 研究発表 13:05~13:45 王棟(東京外国語大学・特別研究員)
“正VP”の事象類型に基づいた副詞“正”の意味記述
- ② 研究発表 13:50~14:30 劉玲伶(株式会社 ProoProo 代表取締役)
日本の大学入試における中国語過去問分析とAI歌曲の教育的可能性
- ③ 実践報告 14:35~15:15 黄海洪(京都大学・院)、何芸芃(日本経済大学)
ベトナム人留学生の第二外国語としての中国語学習ニーズの分析
—日本語教育の実践経験を持つ中国人教師のナラティブ的探求を通して—

6. 今年度のワークショップ・交流会予定

2024年6月1日開催の会員総会で承認された通り、本年度から「中国語教育ワークショップ・交流会委員会」が正式に発足し、阿部慎太郎、植村麻紀子、太田匡亮、勝川裕子(委員長)、西村英希、原田夏季、氷野善寛の7名により運営しています。昨年度までの活動を引き継ぎ、当委員会では中国語を教える教員として知っておきたいノウハウや中国語教育の研究者として知っておくべきことを中心に、講演会やワークショップ、会員同士の交流会等の開催を企画していきます。

2024年度は長期休暇を中心に下記の通り3回実施する予定です。詳細は決まり次第、学会ホームページ及び会員MLで告知いたします。

[第5回 中国語教育ワークショップ・交流会]

日時:2024年9月7日(土)10:30~11:50

タイトル:「投稿論文のどこが評価されるか・されないか~査読者のナイショ話」

講演者:西 香織(明治学院大学・教授)

形式:ZOOMを利用したオンライン講演

要旨:本ワークショップでは、発表者のこれまでの学術ジャーナルへの投稿経験および査読経験から、自身の失敗談も交えつつ、査読付き論文を投稿予定の人、これから論文を査読する可能性のある人に伝えたい、査読の表側と裏側をお話します。

0. はじめに~わたしと投稿、査読
1. 査読とはナニか
2. 査読者とはナニ者か
3. 判定基準と評価ポイント
- 3.1 判定基準/3.2 評価ポイント
4. 査読にもマナー
5. 査読付き論文投稿のススメ

[第6回 中国語教育ワークショップ・交流会]

日時:2024年12月13日(金)20:00~21:30(予定)

タイトル:テーマ別交流会 (検討中のテーマ案:発音の教え方、語彙の導入、場面を考慮した文法導入、評価(試験)、タスク活動、ゼミプロジェクトなど)

形式:ZOOMを利用したオンライン交流会

[第7回 中国語教育ワークショップ・交流会]

日時:2025年2月8日(土)(予定)

タイトル:教員養成ワークショップ 音読から一歩進んだ発音指導~演じる教員へ~

形式:対面(近畿大学東京センター[東京都中央区])

7. 事務局からのお知らせとお願い

7.1. 会員動向

(1) 会員数(2024年7月31日現在):計586名

個人会員563名(通常会員521名、名誉会員42名) / 団体会員23名

(2) 新入会者(2024年5月14日~2024年7月31日現在):計10名(以下敬称略)

王芸嫻(立命館大学・外国語嘱託講師)、黄海洪(日本経済大学・非)、高雯(日本櫻之华中文学校・校長)、陳迪(神戸大学・院)、土居薫(関西大学・院)、野崎雅子(早稲田大学・院)、楊一林(津田駒工業株式会社・専任教員)、楊璇(大東文化大学・専任教員)、李剛(学校法人理知の杜日本語学校千葉校・専任講師)、呂倬菡(大阪大学・院)

*登録年度の会費納入をもって「会員」となりますのでご注意ください。

(3) 退会者(2024年5月14日~2024年7月31日現在):計1名

(4) 除籍者:(以下7名・敬称略)大崎雄二、史彤春、草原理恵、佐々木盛海、苞山武義、徐佳、鄭欣悦

7.2. 会費納入状況確認ならびに会費納入のお願い

『中国語教育』第23号にご投稿をお考えの方は、2024年9月15日までに2024年度までの会費が納入されていないと投稿資格がありませんので、お早めにご納入ください。

『中国語教育』投稿規程 <http://www.jacle.org/contribution/>

会費納入状況は会員自身でWeb版会員名簿(会員情報管理システム)にて確認することができます。

Web版会員名簿 <https://a-youme.com/aymms/jacle/login>

4月5日に郵送した払込取扱票を紛失された場合は、郵便局に備え付けの「払込取扱票」を使用して、下記の郵便振替口座に送金してください。その場合には、通信欄に氏名および会員番号を、会員番号がわからなければ、氏名に加えて学会に登録している住所を必ずご記入ください。

[口座記号-口座番号]00110-1-191152 [加入者名]中国語教育学会

7.3. 退会および除籍について

退会を希望される方は、当該年度までの会費をすべて納入した上で、学会サイトの「Web 版会員名簿・変更手続き」にログインして退会手続きを取っていただきますようお願いいたします。なお、会則第 5 条に基づき除籍になった会員は、氏名が会報に掲載されますのでご注意ください（会報は学会 Web サイトで公開）。退会届が受理された場合、退会者の氏名は掲載いたしません。

7.4. 登録情報の変更について

本学会では、会員の個人情報につきまして、各会員ご自身により入力していただくことになっております。所属や連絡先、郵便物の送付先等に変更が生じた場合は、本学会 Web サイトにリンクされている「Web 版会員名簿」にログインして、ご自身で変更していただきますようお願いいたします。

Web 版会員名簿 <https://a-youme.com/aymms/jacle/login>

Web 版会員名簿(会員情報管理システム)の運用については、あゆみコーポレーションに委託しております。Web 版会員名簿に関するお問い合わせは下記のあゆみコーポレーションまでお願いします。

〒550-0001 大阪市西区土佐堀 1 丁目 4-8 日栄ビル 703A

あゆみコーポレーション内中国語教育学会事務局事務代行

E-Mail:support@jacle.org

TEL.06-6441-5260(代) FAX.06-6441-2055(代)

あゆみコーポレーションは複数の学会の事務局代行を行っており、電話番号、ファックスとも他学会と共通で使用しているため、ご連絡の際には「中国語教育学会」についての問い合わせであるということをお伝えください。

7.5. 住所不明の会員

下記の2名の会員が住所不明で学会からの郵便物が返送されてきています。連絡先をご存知の方はあゆみコーポレーション内の事務局事務代行(support@jacle.org)までご連絡ください。

(以下、敬称略)方雨琦、羅沢宇

過去に住所不明で郵便物が返送された方も、Web 版会員名簿の住所登録変更がない限り再送できませんので、所属変更や転居の際には上記 7.4 の方法で登録変更をお願いいたします。

【資料1】2023 年度会計決算書

中国語教育学会 2023 年度会計決算書

	収入		支出	
	2023 年度予算	2023 年度決算	2023 年度予算	2023 年度決算
会費	¥2,400,000	¥2,569,958		
事務委託費(郵送費を含む)			¥1,300,000	¥1,347,826
事務費(事務局)			¥60,000	¥34,601
郵送費(事務局)			¥25,000	¥3,915
各種支払手数料※1			¥15,000	¥7,100
会議費			¥50,000	¥16,504
旅費			¥400,000	¥100,596
全国大会開催費		¥323,508※2	¥400,000	¥400,000
研究会等開催費			¥100,000	¥33,411
会誌編集印刷費			¥650,000	¥555,500
会誌売上	¥50,000	¥145,250		
電子化作業費			¥1,800,000	
幹事手当			¥330,000	¥330,000
利子		¥58		
小計	¥2,450,000	¥3,038,774	¥5,130,000	¥2,829,453
前年度繰越金	¥7,552,146	¥7,552,146		
予備費/次年度繰越金			¥4,872,146	¥7,761,467
合計	¥10,002,146	¥10,590,920	¥10,002,146	¥10,590,920

※1 硬貨引出手数料も含まれるため、振込手数料を各種支払手数料に変更

※2 第 21 回全国大会の余剰金返金分

監査の結果、経理内容は適切であり、会計諸表は的確に処理されていることを認めます。

2024 年 4 月 6 日

2023 年度会計監査

板垣友子 

2023 年度会計監査

赤池晴香 

【資料 2】2024 年度予算案

	収入	支出
前年度繰越金	7,761,467	
会費	2,400,000	
事務委託費（郵送費を含む）		1,400,000
事務費（事務局）		50,000
郵送費（事務局）		25,000
各種支払い手数料		15,000
会議費		50,000
旅費		150,000
全国大会開催費 ※1		1,300,000
研究会等開催費		200,000
会誌編集印刷費		700,000
会誌売上	50,000	
電子化作業費 ※2		1,200,000
幹事手当		300,000
小計	10,211,467	5,390,000
予備費／次年度繰越金		4,821,467
合計	10,211,467	10,211,467

※1 昨年度は全国大会開催費を 40 万円としていたが、今大会第 22 回全国大会では 130 万円と大幅に増額している。その理由は、今大会は施設利用費と託児利用サービス費で 50 万円を超えることが予想され、施設利用費は前払い制であったため、開催校側で立替えを行う状況を避けるには、増額をする必要が生じた。

※2「電子化作業費」の 120 万円は、「学会誌のデジタル化」に要する費用の概算として計上した。

【資料 3】中国語教育ワークショップ・交流会委員会に関する内規（会則第 10 条関連）

2024 年 6 月 1 日

1. 本会に中国語教育ワークショップ・交流会委員会（以下「委員会」と称する）を設置する。委員会は本会の会員相互の交流、研修に関連する諸業務を管轄する。
2. 委員会は 3 名以上の中国語教育ワークショップ・交流会委員会委員（以下「委員」と称す）をもって構成する。
3. 委員の互選により中国語教育ワークショップ・交流会委員会委員長（以下「委員長」と称す）を選出する。委員長は会議を招集し、その議長となる。委員長が事情により職務を遂行できない場合は、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代理する。
4. 委員の任期は会計年度と連動し、原則 2 年とする。ただし再任を妨げない。委員の改選は、会員の中から委員会が選出し、理事会の承認を得て、会長が委嘱する。